



## ペット介護

大切なご家族に最後まで  
寄り添うためのケア方法



## ご自宅での介護

### 《生活環境》

寝ている時間が徐々に増え、多くなっていく老犬猫にとっては  
居心地のよい場所は大切な場所です。  
老犬猫の状態に合わせて適したものを用意しましょう。

#### ①マットやベッド

体重で沈み込みすぎないような適度な弾力がある物を用意します。  
柔らかすぎると足を取られたり、起き上がれなくなることがあります。  
寝たきりになったときは床ずれ防止に低反発のマットなどがあると良いでしょう。  
マットやカバーは爪や足が引っかからない素材を選びましょう。

#### ②置き場所

「目の届く場所」、「家族が感じられる所」、「ドアやテレビの近くは避ける」  
「夏は涼しく冬は暖かい」などを考慮して配置しましょう。

### 《食事》

#### ①どんなフードを食べているか？回数？

- ・給与量や栄養が十分満たされているか
  - ・ふやかしやすいか
  - ・食べづらくはないか
- などを確認します。また、1日1回では老犬は負担になることが  
あり食べ残すことがあります。必要に応じて回数を増やします。



#### ②器の形、材質

- ◎食べづらくしている場合、それを改善することが重要です。
- ・容器がずれたり倒れたりする場合→滑り止めをつけたり、容器を重くしてみよう。
- ・角に残ってしまう場合→底が丸い物を選ぶとよいでしょう。
- ◎ステンレスの容器とスプーンはカンカンと甲高い音が出ます。認知症、てんかん、  
前庭疾患がある犬が聞くと驚いたり、発作を誘発することがあります。  
その時はシリコンやプラスチックに変えたりするなど配慮しましょう。

### ③食べている時の姿勢

ふらつく、足が開いていく場合は、器の高さが食べかもしれません。  
器の高さは、食事台の底辺が肘関節の少し下あたりにくる高さが良いでしょう。  
(首から背中ほぼ水平で頭を自然に下げ鼻先が底に垂直になる程度)  
ふらつく、足が開いていく場合には足元には滑り止めを敷くと良いでしょう。



### ④危険な場所は防止する

・老犬猫は視力や聴力が低下します。テーブルなど角があるものは、クッション性のある

物でカバーしたり、電気のコードなどはつまずき転んだり、骨折する可能性があるので  
できるだけ床に置かないようにして下さい。

・階段、玄関など落ちる可能性のあるところは防止ゲートやスロープなどをつけるように  
して下さい。

・慣れ親しんだ部屋は視力や聴力が低下してもある程度適応ができるため、  
家具の配置換えをしないようにして下さい。

### ⑤食べている時の様子やどんな食べ方をしているか？

こんな様子はありますか？

- ・勢いがある
- ・たべたそうなのに進まない
- ・固形物が食べられない、こぼす
- ・舐めるように食べネチャネチャになる
- ・口から出て飛び散る、隅に残る
- ・鳥のようつついて食べる

この様な様子が見受けられたら、、、

- ・ふやかしてみる
- ・ペースト状のフードを混ぜる
- ・手作りのトッピングを乗せる



これらをすることによりドライフーがまとまりやすくなり食べやすくなります。  
また、中心を高くする、一口大にまるめる、棒状にするなど食べやすくなります。

### ⑥完食までにかかる時間

「基本的に20分以内」が目安です。

食事をするだけでも体力は思った以上に体力を消耗します。

食べて欲しい思いが逆に疲れさせてしまっている場合もあります。

これでは動物のみならず、飼い主さんの負担が増え、介護疲れの要因になります。

\* 上手に食べられなくても、勢いよく食べる際の注意点  
大量のフードが口に入る可能性があります。

嚥下機能(飲み込む力)の低下で喉につまる危険性があり、注意が必要です。

食べた後じっと止まる、えずくなどがみられた場合、

フードを下げ、飲み込むのを待つ又は水を与えてみてください。

## 《徘徊》

『徘徊』は認知症状の一つで、飼い主さんの負担を増やしてしまいます。  
狭い場所の入り込んでしまい、バックする事ができない状況が増えます。  
「まさかこんな所に！」と信じられない所で動けなくなることがあります。  
危険地帯を排除する必要があります。目をはなす際は、円形サークルや  
ビニールプールなどを使うことで安全に動くことができます。

\* 選択するときの注意

・壁面の高さは犬の体高以上

・作りは頑丈に

・格子状の時は中に保護材を設置

倒れたり、頭、足が挟まることのないように注意してください。

## 《睡眠》

### ◎夜鳴き

“要求吠え”と“認知症鳴き”があります。

要求吠えは解消されれば泣き止みますが、認知症鳴きは続くことがあります。

夜鳴きの多くは要求吠えの可能性にあります。

要求吠えで鳴いている理由

- ・お腹が減った、喉がかわいた。
- ・排泄したい
- ・暑い、寒い
- ・さびしい など

\* 要求の傾向を記録しましょう

時間や何をしたら鳴きやんだなどを記録し、

昼間の様子や睡眠時間なども一緒に記録しておくといでしょう。

また、サプリメントを使用することで夜鳴きが改善されることがあります。



介護についてご心配やご不明な点がありましたら  
お気軽にご相談ください

ルル動物病院では、ご家族が大切な愛犬・愛猫ちゃんと  
少しでも一緒に過ごしやすい様に介護預かりも行っております。

飼い主様が明るい気持ちで老犬猫の介護の生活を楽しみ、  
愛犬、愛猫ちゃんとのかけがえのない時間を過ごせる様  
お手伝いさせていただきたいと思っております。

